

(別紙様式1)

平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	本巣市立糸貫東幼稚園		
実 施 期 間	平成25年11月22日(金)		
実 施 概 要	①制作物を売り買いする店と体験型コーナーの店での『お店屋さんごっこ』の保育参加 ②地域の人(健寿クラブの方)との交流会		
実 施 内 容	学習・取組の分野 ■自然 □歴史 ■文化 □産業 □その他		
	公開の方法 □授業公開 □成果発表 ■交流活動 □講演会等 □地域行事等参加 □その他		
来 校 者 数	保 護 者	232人	計 264人
	地域関係者	32人	
実 施 状 況	<p>[1] 特徴的な実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・上記を「お店屋さんごっこ」として園を公開した。異年齢児交流保育、健寿クラブの方との交流会、地域の方、保護者の方、未就園児親子との交流を実施した。・全園児による品物づくり(廃材制作)、体験コーナーを進める中、保護者への「品物募集」「品物づくり」等の提供依頼を行った。 <p>[2] 保育公開等の主な学習内容</p> <ul style="list-style-type: none">・「役割やルールを学び社会性を身に付けていく」をテーマに地域ぐるみの教育を推進し、心の教育の充実が図れるよう異年齢の縦割り保育に健寿クラブ・未就園児親子・地域関係者を巻き込んだ「お店屋さんごっこ」を展開した。 <p>[3] 活動中の様子について</p> <ul style="list-style-type: none">・「お店屋さんごっこ」では全園児で、お店屋さんや体験型コーナーの品物作りに取り組み、年長児が買い物ごっこや体験型コーナーでの遊びを展開する中、保護者も参加できるようにし、人とのかかわり方や運営の方法について学んだ。・「レストランごっこ」では、年中児が異年齢交流を通してお店を運営する中で、お客との言葉のやりとりを学んだ。・「健寿クラブとの交流」では、年長児が日頃、親しんでいる手遊びやお手玉遊びで健寿クラブの人と一緒に触れ合ったり、各コーナーを一緒に回ったりしながら楽しんだ。 <p>[4] 保護者や地域の方へのアンケート実施</p> <ul style="list-style-type: none">・参加された保護者、地域住民、評価委員、評議員の方からの意見を積極的に聴取したり、子どもの姿や保育者の姿を通して園経営にかかわるアンケート調査や外部評価の実施をしたりした。・例年がない体験型コーナーのやり方やレストラン設営等、諸意見に対して、保育者自らが謙虚に受け止めるとともに改善に努め、今後の園運営の改善に活かすこととした。		

成果及び課題

[保護者や地域の方の意見・感想]

○子ども達の生き生きとした活動や優しい対応が見られるよい行事である。
△公開保育へのアンケート調査の意見や外部評価を得て、ボランティア募集の在り方等、全職員がこれを周知し不備を自覚する中で、実践内容の改善及び質の向上を図るようにする。

[園児の姿]

○子ども・親・地域・保育者が一緒になって取り組む姿勢が自然に確立されたとともに、役割やルール、人とのかかわり方など社会性が身に付いてきた。

△体験型のお店屋は、子どもそれぞれが希望したコーナーに参加した。そうした中での取り組みから一人一人の達成感を検証した時、個人差もありコーナーによっては十分な対応や言葉のやりとりができない子もいたため、経験の積み重ねや計画の見直しを再考する。

[園の教育週間に係る趣旨やねらいの達成状況]

○地域公開に向けての取り組みにおいて、年度当初からの地域・協力関連機関や団体及び保護者等とのかかわりの中で培われた子ども達の実践力が試される機会となり、協同的な活動の楽しさを味わえる実践となった。

△保育者自身の子どもを見る目や個別支援に対する資質を高めていかなければ保護者のニーズに専門職として応えられない。さらに研鑽を積む必要がある。

[総括]

・幼児期からの豊かな心と生きる力を育む教育の充実を図るためには、子ども、親、地域の人々、保育者が共に育ち合うためのネットワークをさらに確立していくことが必然であると考えます。